Word Template

of the Harris Science and Engineering Review of Doshisha University

Taro DOSHISHA,\* Hanako DOSHISHA,\* and Saburo KYOTO\*\*

(Received month day, year)

The Science and Engineering Research Institute of Doshisha University provides a MS Word style file, for preparing your manuscript, which will be submitted to the Harris Science and Engineering Review. This document describes how to use the file, and ...

**Keywords**:word, format, reference list

**キーワード**：ワード，体裁，参考文献の記述方法

ハリス理化学研究報告 投稿用Wordテンプレート

同志社 太郎，同志社 花子，京都 三郎

1. はじめに

本稿はハリス理化学研究報告投稿論文を記述する際の注意事項をまとめたものです．第２章では，ワードテンプレートについて，第３章では，英語の各項目の書き方について説明します．第４章では，図表の注意事項について説明します．第５章では脚注・参考文献について説明します．第６章では原稿提出にあたっての注意事項を説明します．

1. ワードテンプレートについて

本ワードテンプレートでは，［書式］→［スタイルと書式］より文字レイアウトや段落レイアウトが変更できます．作成されたテンプレートのスタイルは「\_タイトル（英）」のようにアンダーバーから始まるものです．該当箇所にカーソルを置き，［スタイルと書式］の中から書式を選択すれば，書式設定が適用されます．なお，ご使用するOSやMS Wordソフトのバージョンによって，ここで記載している操作と若干異なることがありますので，各自ご対応ください．

本ワードテンプレートを使用する際，用意したスタイルの設定が変更されないよう下記に留意願います．

・「スタイルの変更」→「自動的に更新する」のチェックボックスをチェックしないで下さい．

・「文字/段落スタイルの変更」→「選択箇所と一致するよう更新する」を選択しないで下さい．

・「文字/段落スタイルの変更」→「スタイルに登録されている書式を更新する」を選択しないで下さい．

ハリス研究発表会等の予稿を

新規論文等として投稿する場合など

また，スタイルには，行間も定義されておりますので，上から順番にスタイルを設定することで，規定の行間を作ることができます．順番は以下の通りです．

(1)　\_タイトル（英）

（Times new roman太字　14pt　行間24）

(2)　\_著者名（英）（フォントは3.2参照）

(3)　\_提出日　（Times new roman 10pt）

(4)　\_あらまし　（Times new roman 9pt 行間15）

(5)　\_Keyword　（Times new roman 9pt）

(6)　\_キーワード　（MS明朝 9pt）

(7)　\_タイトル（和）

（MS明朝 太字　14pt　行間24）

(8)　\_著者名（和）　（MS明朝 10pt）

その他，定義してあるスタイルは以下の通りです．

**\_本文**：本文に適用されるものです．（MS明朝 10pt 行間17） 次の章が続く文章の末尾は，一行改行します．

**\_見出し１**：各章の見出しです．（MSゴシック太字10pt） 次に続く文章との間にスペースを調整する機能があります．

**\_見出し２**：各節の見出しです．（MSゴシック10pt） 前の文章との間と次に続く文章とのスペースを調整する機能があります．

**\_所属**：１ページ目下方に書く場所があります．

**\_文献引用**：５章をご覧ください．

**\_文献**：５章，参考文献をご覧ください．

　以上のスタイルを用いることで，フォーマット通りの論文を記述することができます．その他イレギュラーなことに関しては各自で対応ください．

1. 英語項目の書き方

この章では，英文の各項目の書き方について説明します．英語論文の場合，日本語キーワード，表題，著者名は不要です．

3.1.　英文タイトル

英文表題は，冠詞，接続詞，前置詞以外の各単語の頭文字を大文字とします．フォントはTimes new roman 太字 14pt 行間24とします．スタイル名は「\_タイトル（英）」です．

3.2.　英文著者名

姓名ともに略さず，姓はすべて大文字とします．フォントはMS明朝 10ptで姓２文字目以降は8ptとします（例：Taro DOSHISHA）．連名の場合、姓の最後に半角の「,」を入れます．ただし，最終著者に「,」は入ず，最終著者の前に「and」を入れます．（例：2名の場合，A and B　3名以上の場合，A, B, … , D, and E）

著者全員の所属および連絡先は，英語著者名の右肩に「\*」, 「\*\*」印を付け，脚注に対応する著者の所属を書きます． 英文著者名のスタイル名は，「\_著者名（英）」です．

3.3.　英文提出日

提出日は「month, day, year」の順番で書きます．スタイル名は，「\_提出日」です．フォントはTimes new roman　10ptとします．

3.4.　英文要旨

書き始めは半角5字をあけます．スタイル名は，「\_あらまし」です．フォントはTimes new roman 9pt 行間15とします．

3.5.　英文キーワード

キーワードは５つまでです．固有名詞，略号以外はすべて小文字で記します．スタイル名は，「\_Keywords」です．フォントはTimes new roman 9ptとします．

1. 図表に数式および図表に関する注意

4.1. 数式について(例：Cambria Mathフォント使用)

文中にいれる数式は, のごとく横につづけます．数式は，文章の一部として，数式の最尾に適切に「，」「．」を付けます．なお，「，」を省略してもよいです．例えば，次の３式の最後に「．」を付けます．

(1)

(2) (3)

文中で数式を参照する場合には，例のように記してください．

Table 1. The number of states and edges in and

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | |  | |
| State | Edge | State | Edge |
| 2 | 4 | 16 | 3 | 10 |
| 4 | 16 | 10 | 10 | 36 |
| 8 | 64 | 256 | 36 | 136 |
| 16 | 256 | 1024 | 136 | 528 |

　（例）日本語　式 (1)，式 (1)-(3)

英　語　Eq. (1), Eqs. (1)-(3)

ただし，文頭では，Equation (1), Equations (1-3)

とします．

　数式のフォントに関して，次の３つの様式から選択することを推奨しますが，これ以外の様式でも利用可能です．（最近のバージョンのMS-Officeでは，数式エディタが使えなくなりました．）

(1) MS-Wordの「数式ツール」をそのまま利用する．文中の数学変数などは，「数式ツール」の利用を推奨します．この場合は，数式のフォントは，Cambria Mathになります．

(2) MathType (有償) の数式入力ソフトを利用する．評価版のMathTypeは30日間経過するとフル機能のバージョンから機能が削られたLiteバージョンになりますが，引き続き使用することができます．無料版のLiteバージョンでも，数式のフォントは，そのままTimes New Romanになります．

(3) Latin Modern Mathフォントを利用する．フォントデータを以下のURLよりダウンロードしてインストールすることで，LaTeX調のフォントをMS-Wordに取り込むことができます．

https://ctan.org/tex-archive/fonts/lm-math/opentype

4.2. 図表について

図表見出しは英語表記とします．見出しの最初の単語の頭文字を大文字とします．また，図表中の説明文を英語で表記すること．ただし，必要な場合は日本語表記も可とします．なお，説明文字の終わりにピリオドはつけません．

本文での図表の引用は，漢字の代わりにFig. 1またはTable 1のようにします．なお，文頭では略さずに，Figure 1のままで記述します．

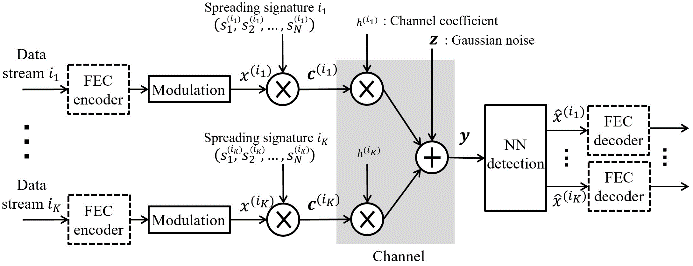


Fig. 1. CDMA system model with active users among users.

1. 脚注・参考文献の書き方

脚注は，単語・文章の終わりに †， ‡，§ などのシンボルをふり，ページの下に補足を記述します[[1]](#footnote-1)．なお，\* は著者の所属のところに使用しているため，脚注での使用を避けてください．

参考文献は本文の終わりにまとめ，本文での引用順に番号を付します．文献のスタイル名は「\_文献」です．本文での引用方法は，スタイルの「\_文献引用」を使ってx,y) のように入力できます．文献の記載方法は，以下のようになります．フォントはMS明朝9pt　行間14とします．

**雑誌**1,2) : 引用番号）著者全員の氏名，“表題” ， 雑誌名，**巻**[号]，最初のページ-最後のページ（発行年）．なお，巻の数字は太字にします．英語の場合，雑誌名を斜体にします．

**書籍**3,4): 引用番号）著者全員の氏名，書籍名，（出版社，所在地，発行年），ページ．英語の場合，書籍名を斜体にします．

**編著中の論文**5,6): 引用番号）論文著者全員の氏名，“論文名”，編者全員の氏名，書籍名，（出版社，所在地，発行年），最初のページ-最後のページ．英語の場合，論文名に“ ”は不要．書籍名を斜体にします．

**国際会議**7): 引用番号）著者全員の氏名，“表題”， 学会論文集名，最初のページ-最後のページ（発行年）．英文の会議名，論文集名を斜体にします．

**国内大会，研究会論文集**8): 引用番号）著者全員の氏名，“表題”，学会論文集名，分冊また号，no.を付けて論文番号，最初のページ-最後のページ（発行年）．

**Webページの場合**9) : 引用番号） 著者名，“Webページ表題”， サイト管理者名等，URL．参照年月日は記載します.

なお，日本語文献の場合，著者名は原則として全員のフルネームを記載します．英語文献の場合，ファーストネーム，ミドルネームはイニシャルのみを記します．また，著者２名の場合，“A and B”とし，３名以上の場合，“A, B, … , D, and E”とします． 英語文献の表題の体裁は，原稿表題の書き方に準じます．雑誌名は，通常用いられる略号を使用します．

1. 原稿提出について

原稿提出については，以下の点にご注意ください．

6.1.　ページ数制限

論文のページ数は12ページ以内とします．ただし，編集委員会が承認した場合はこの限りではありません．

6.2.　整理

投稿論文は，ページ番号を印刷しませんが，鉛筆で通し番号（ページ番号）をつけてください．

6.3.　省略表題

省略表題（ランニングヘッド）は，投稿票に記入すること．日本語論文は，日本語30文字以内，英語論文は，スペースを含め英語40文字以内にします．なお，省略表題を提出原稿に印刷する必要はありません．

6.4.　提出媒体

投稿原稿は，紙出力による原稿1部と電子データを提出のこと．なお，電子データのコピーは必ず手元に保存すること．

付録A.　ハリス理化学研究報告投稿規定の抜粋

同志社大学ハリス理化学研究報告論文の投稿は原則として本研究所に所属する所員に限る．ただし，前述以外の研究者を含むことは差し支えない．また，編集委員会が承認した場合はこの限りでない．

投稿論文の種類は，原著論文，レビュー，研究ノート（データレポート等）とする．投稿論文は，日本語または英語で執筆し，本研究所の目的を達成するために行われた研究で，新しい価値ある結論，あるいは事実を含むと認められ，かつ本研究報告に掲載される前に他の出版物に発表されていないものに限る．ただし，ハリス理化学研究所主催もしくは共催の研究報告会等の予稿、速報として研究報告に掲載された研究ノートを発展させた論文，arXivなどのPreprint server へ投稿された論文を新規論文等として投稿する際は，既発表であることを論文中に明記し，既発表の原稿を添付すれば投稿可とする．また，レビューは必ずしも新規性を問わない．

本研究の一部は「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」（平成26年〜平成30年，事業番号S1411030）の支援のもとに行われた．ここに記して謝意を表する（謝辞の例）．

参考文献

1. 吉田 茂，“田辺校地の自然環境”，自然環境学会誌，**32**［2］，693-702（1976）．
2. C. E. Shannon, “A Mathematical Theory of Communication”, *The Bell System Technical Journal*, **27**[3], 379-423 (1948).
3. 岸 信介，新町の歴史，（烏丸出版，京都，1975），　p. 23．
4. L. L. Beranek, *Acoustics*, (McGraw-Hill, New York, 1954), p. 180.
5. 佐藤 栄作，“今出川と私”，池田 隼人編，御所近辺，（烏丸出版，京都，1975），pp. 123-220．
6. T. Hata, Mechanics of Flags and Wings, in M. Ohira (ed.), *Advanced Mechanics*, (Academic Press, New York, 1970), pp. 180-220.
7. J. K. Kennedy and A. Lincoln, “A Program for Register Allocation”, *Proc. the Design Automation Conf.*, 210-215 (1987).
8. 韓 太舜, “[招待論文] 情報スペクトル : あれこれ”，電子情報通信学会技術研究報告，情報理論， IT2003-54, 31-39（2003）．
9. 電子情報通信学会 編集出版部，“電子情報通信学会和文論文誌 投稿のしおり”，

<http://www.ieice.org/jpn/shiori/iss_mokuji.html（2021.04.21>）.

1. 脚注を記述します．フォントはMS明朝8pt. [↑](#footnote-ref-1)